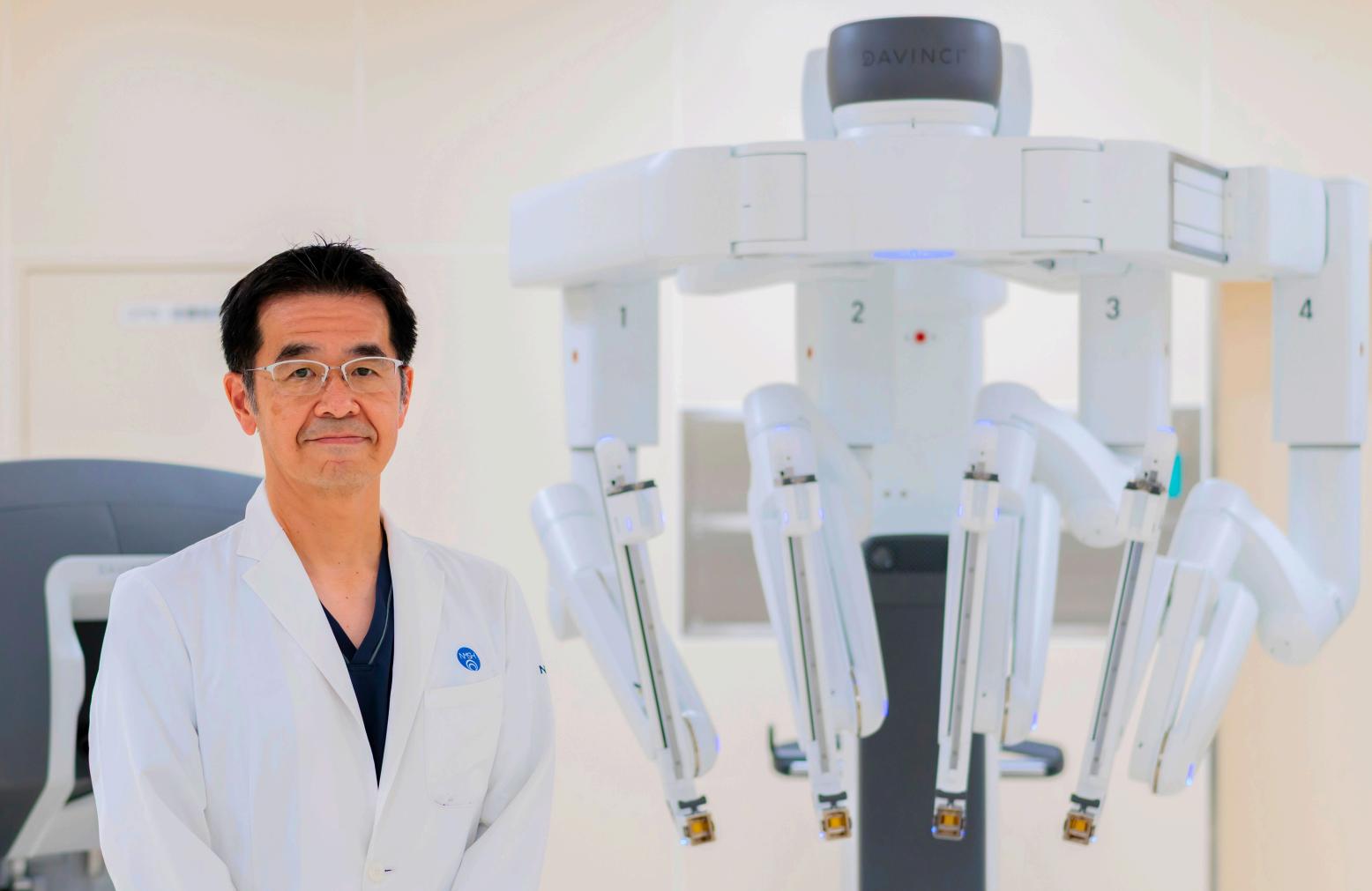


SIGMA vol.114

©KAWAKITA MEDICAL FOUNDATION. ALL RIGHTS RESERVED.

大腸がんへの ロボット支援下手術

社会医療法人 河北医療財団
河北総合病院



より安全に、より自然に 患者さんに寄り添う 直腸がんへのロボット手術

ロボット手術で 術後の機能障害を大幅に減らす

直腸の周囲には膀胱、前立腺・精嚢、子宮・腟など繊細で重要な臓器が密集しており、従来の手術では術後の性機能障害や排尿障害が大きな課題でした。ロボット支援下手術では、拡大視野と高い操作性により神経をより確実に温存でき、これらの障害を大幅に減らせることが研究で示されています。患者さんの術後の生活に配慮した治療が可能になっています。



自然肛門を残せる可能性を広げる 先進的なアプローチ

肛門に極めて近い位置にがんがある場合、従来は永久人工肛門を避けられないケースが多くありました。ロボット手術は繊細な操作が可能なため、肛門周囲の神経や筋肉を守りながら切除が行え、自然肛門を温存できる可能性が大きく広がっています。日常生活や社会復帰への不安を少しでも減らし、患者さんのQOL向上に直結する大きなメリットです。

園田消化器外科主任部長
解説動画はこちら



【患者さんのご紹介はこちら】

河北総合病院 地域連携課 03-3339-2152（直通） 月～金 9:00～17:00／土 9:00～12:00 ※祝日休